

SSKS

あけぼの つうしん

11月号

2023年
1995年

11月20日
8月10日

発行 第3種郵便認可(毎週1回 水曜日 発行)
SSKS 増刊通巻 第8880号

発行所 東京都世田谷区祖師谷3-1-17
障害者団体定期刊行物協会 定価50円



玉入れ頑張れ！ヨイショ！（府中生活実習所：2グループ運動会）

社会福祉法人あけぼの福祉会 <http://akebono-fukushi.com>



- 府中共同作業所（法人本部） 〒183-0056 東京都府中市寿町3-3-6
☎042-367-0640 E-mail: kyoudous@akebono.fuchu.tokyo.jp
- ワークセンターこむたん 〒183-0056 東京都府中市寿町3-3-6
☎042-306-8639 E-mail: komutan@akebono.fuchu.tokyo.jp
- 府中生活実習所 〒183-0005 東京都府中市若松町5-2
（短期入所事業併設） ☎042-363-5251 E-mail: f-seijitu@akebono.fuchu.tokyo.jp
- 地域生活支援センターあけぼの 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル1F
☎042-358-1085 E-mail: siencenter@akebono.fuchu.tokyo.jp
- ホームヘルプステーションきぼう 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル1F
☎042-352-0630 E-mail: kibou@akebono.fuchu.tokyo.jp
- グループホームペンギんはうす 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル3,4F
（グループホームあけぼのユニット） ☎042-319-8915 E-mail: pengin@akebono.fuchu.tokyo.jp
- グループホーム樹林の家 〒183-0026 東京都府中市南町6-52-10
（グループホームあけぼのユニット） ☎042-319-2268 E-mail: kirin@akebono.fuchu.tokyo.jp
- あけぼのショートステイ 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル2F
☎042-319-8917 E-mail: akebonoshort@akebono.fuchu.tokyo.jp



シリーズ 障害者権利条約

みんなちがって みんな一緒!

～障害者権利条約とは？

Vol.2

国連勧告で問われる日本の障害者施策～

【19条】

自立した生活及び
地域生活への包容



<はじめに>

前回に引き続き、第 19 条への総括所見に注目し、暮らしの視点で利用者やご家族の実態と共に考えていきたいと思えます。

障害のある人の人権や自由を守ることを定めた「障害者権利条約」に、日本も批准して 8 年経過した昨年、政府がどのような取り組みをしてきたか、国連の権利委員会による初めての審査が行なわれました。それは、総括所見としてまとめられ、他国と比べて評価された点は多かった一方、日本政府へ数多くの改善勧告が出されました。

<19 条に対する国連の指摘、要請>

障害者が地域社会で自立して生活するための十分な支援体制(利用しやすい安価な住宅、個人的支援、在宅や地

域社会でのサービス利用など)が整っていないことが指摘されています。そして、地域社会で自立した生活を目指すために、人材、技術、賃金などを伴う法的枠組みや国家戦略の策定・都道府県への義務付けを、強く要請されています。

<障害がある人、ご家族の生活実態>

圧倒的に在宅の生活、特に家族介護を前提とした生活を余儀なくされています。「80・50 問題」と称されるように、80 代の親が 50 代の障害があるわが子の介護をしている状況は、当法人内の事業所においても未だ少なくありません。また、ご家族の休養として、短期入所の利用をされる人が多くいますが、受け皿となる事業所に対して、圧倒的なニーズの多さで十分な利用の保障ができているとは言い難いです。

実際、当法人の二事業所で実施している短期入所でも、「もう少し利用回数を増やせないでしょうか」「2泊や3泊の利用はできませんか」「週末の連泊が

できると助かります」など、ご家族からの希望を多くいただきますが、人的・物的環境から十分に希望にそえることができていません。異食をする、知らない間に外に出てしまうため目を離すことができない、夜間なかなか眠れない、または早朝に目を覚ましては起こされるので十分な睡眠がとれない、高齢となった親の介護もあり、わが子の介護と両輪を担わざるを得ないなど、ご家族の疲労困憊した実態も少なくありません。



<身近な事例>

50代後半を迎えるAさんは、通所施設に通いながら80代の両親と3人暮らしの生活を送っていました。当法人の短期入所を長年定期利用され、慣れない場所・人の中で生活をする経験を重ね、将来のご自身の生活にむけて少しずつイメージを膨らませてきました。

家族による家庭介護が年々厳しくなる中、とうとう家族が長期入院することとなり、家庭での生活がいよいよ厳しい状況となりました。しかし、Aさんが生活していくための条件に合うグループホームは在住地域になく、あったとしても恐らく空きがあるわけではないでしょう。また、入所施設についても、都内はいずれも満床どころか、待機者が何百人もいる状況です。遠方の入所

施設に1カ所入所可能なところがあるとの情報もありましたが、Aさんにとって暮らしの場を選択するどころか、選択肢すらほぼないというのが現実です。

家族が入院されたことで、Aさんの生活が一変するということは、家族に依存せざるを得ない生活を強いられている現実が浮き彫りです。

<総括所見からの導き>

家族が介護することは当たり前として、家族による私的な支援に依存・放置し、無策の現状であることを改善させるとともに、家族介護なしに自立した暮らしの場を、慣れ親しんだ地域でこそ確保できることを、多くの利用者や家族、関係者である私たちは強く望んでいます。

そのためにも、グループホームなどに十分な予算措置をしていくこと、重い障害のある人もグループホームの入居や短期入所の利用ができるために、報酬単価の引き上げをすること、社会資源の絶対量を確保していくこと、その上で障害のある人が選択できる多様な暮らしの場があることがとても重要だと考えます。障害のある人の誰もが「自分らしく」暮らしていくために、何が必要なのかということ問い続けること、そして発信し行動することが、障害のある人たちの権利や人権を守ることにつながると、この総括所見から学び、確信します。





府中生活実習所

鴨川～横浜の旅

～4年振りの旅行～



府中生活実習所では、10月5日・6日と10月12日・13日に、2回に分けて1泊2日で鴨川シーワールドと横浜中華街へ旅行に行ってきました。新型コロナウイルスが5類に移行したことを受けて旅行を再開することを検討し、感染対策を含め、綿密に準備をしてきました。

今回は、実に4年振りとなった旅行について、どのような過程を経て実現するに至ったのか、楽しかった旅行当日の様子と併せて、準備段階から振り返りお伝えしたいと思います。

新型コロナウイルス感染対策

新型コロナウイルスが5類に移行したからといって、世の中から新型コロナウイルスが消えたわけではありません。施設内ではこれまで通り除菌をしたり、職員は支援中マスクを着用したり、毎週抗原検査を実施したりしています。そのような中で旅行に行くことに、不安を感じる保護者や職員がいたことも事実です。

そこで、旅行中どのような場面でマスク着用が望ましいのか、可能な限り感染リス

クを減らす方法は何なのか、利用者と職員の動きを想定し整理しました。見学先やホテル内の一般客と接する機会が多い場所ではマスクを着用すること、職員は常時アルコール消毒を携帯すること、見学先は屋外で楽しむことができる場所にする、2日目の食事はレストランの個室を貸切ることなどを決めました。

また、旅行の3日前から毎日職員は抗原検査を実施し、旅行参加利用者は当日朝自宅で抗原検査を実施することとしました。こうして、出発前に全員の陰性を確認することができました。

旅行の前に外出を再開

これまでは、月に一度外出をし、食事や見学先での体験を楽しむ経験を積み、年に一度の旅行で外出の経験を活かすことができていましたが、コロナ禍になってから感染対策のため旅行や外出といった行事は全て休止していました。そのため、2020年度以降に入所した利用者、入職した職員などは、施設での旅行や外出の経験がありませんでした。

安心して旅行に行くために、新しく入った利用者と職員がいるグループを中心に、旅行前に個室のレストランで食事をするという内容の外出を行いました。初めての外出に期待感を持ったり、久しぶりの外出に緊張したり、食事を楽しんだり、旅行に向けて気持ちも高まりました。

旅行1日目・鴨川シーワールド

いよいよ待ちに待った旅行当日です。みなさん施設の前に到着した大型バスに目を輝かせ、次々に乗り込みました。バスが高速道路に入ると旅行気分がいっそう高まり、高速道路から見える景色にも歓声が上がリ、車内では楽しそうな笑い声や話し声がたくさん聞かれました。

高速を降りて長い山道を抜けると、目の前に海が見えてきました。鴨川シーワールドに到着です。2回とも好天に恵まれ、輝く海を見ながら迫力満点のショーや食事、買い物を楽しむことができました。



鴨川シーワールドの名物といえば、何といてもシャチのショーです。体調 5mにもなるシャチが4頭出演するショーは大人気のイベントです。まずはショーの前に、大きな水槽で泳ぐシャチを眺めながらレストランで昼食を楽しみました。水槽で泳ぐシャチに釘付けになる人、美味しい食事を食べて笑顔になる人、利用者の嬉しそうな表

情に職員も自然と笑顔になりました。

食事の後は、シャチのショーを鑑賞しました。ご存知の方も多いと思いますが、鴨川シーワールドのシャチのショーは観客がずぶ濡れになることもある、大迫力のショーです。レインコートを着込んで水に濡れる対策をしている人がたくさんいました。音楽が流れてシャチとトレーナーがステージに登場し、巨大水槽をダイナミックに泳ぎます。シャチがトレーナーの合図で観客席にヒレで水をバシャバシャとかける様子を見て、利用者も大笑いしていました。



ショー以外にも川や海の生き物が展示されており、興味深そうに見つめる利用者の姿がありました。



ウミガメかわいい♡クラゲきれい！



美味しいお菓子や可愛いぬいぐるみのお土産を購入し、自慢げに買い物袋を見せている人もいました。海辺のベンチで寛いだり、大きなぬいぐるみが当たるくじ引きを楽しんだり、アイスを食べたり、みなさん思い思いに過ごしていました。



三日月シーパークホテル安房鴨川

宿泊場所は、鴨川シーワールドから車で15分程の所にある、三日月シーパークホテル安房鴨川です。こちらのホテルはスパやゲームセンターがあり、ホテル内でもさまざまな体験を楽しむことができます。



太鼓の達人も
ありました♪

スパには 25mプールや周回できるプール、ジャグジー、山をデザインした滑り台などがあり、プールサイドにはゆっくり寛げる椅子も用意されていました。リラックスして身体を浮かせたり、水の中を歩いたり、滑り台ではしゃいだりと、はじけるような笑顔が見られました。

旅行といえば温泉ということで、オーシャンビューの露天風呂を満喫しました。夕食前の明るい時間帯に入浴した人は、露天風呂から大海原を望むことができ、開放感たっぷりの入浴をすることができました。やはりみなさん温泉が大好きで、広いお風呂に癒されました。

待ちに待った夕食の時間がやってきました。旅行らしく全員で食べる宴会食ですが、二部屋に分かれて室内の席の間隔を広めにするなどの感染対策を行いました。海の幸を中心とした豪華な食事をみんなで楽しみ、大満足で夜を迎えました。



豪華な夕食♪

夕食後にもお楽しみがありました。こちらのホテルではエントランス前で噴水ショーが行われます。駐車場に面した噴水が音と光で演出され、とてもきれいでした。みなさん噴水を見つめ笑顔になったり、音楽にのったり、テンションが上がり職員の手を引いて歩き回る人もいました。



噴水ショーを楽しんだ後は、それぞれ部屋に戻って温泉に入ったり、就寝したり、楽しい旅行一日目を終えました。

旅行2日目・横浜中華街

旅行2日目は横浜中華街に行きました。4年前の旅行でも訪れた場所で、利用者も見通しを持って安心して観光できる場所です。中華街にあるローズホテル内の重慶飯店で、四川料理のコースを堪能しました。

コースは前菜盛り合わせに始まり、炒め物やエビチリ、春巻、焼売、麻婆豆腐、炒飯、デザートには杏仁豆腐をいただきました。



昼食後は個別に中華街を自由散策しました。お土産を買いに行ったり、食べ歩きをしたり、みなさん満喫していました。2回とも平日とは思えない賑わいでした。



4年振りの旅行を終えて

旅行中、みなさんととても良い表情をしており、たくさん楽しい思い出を作ることができました。旅行に行くまでは、利用者、保護者、職員も少なからず不安があったと思います。新型コロナウイルス感染の心配がある中で、安心して旅行に行き、無事に帰ってくるということを目標に、さまざまな準備を行いました。結果として、目標以上の収穫があったように思います。

外に出掛けることでしか得られない経験は、社会性を培う点において非常に重要です。もちろん、慣れ親しんだ環境の中で安心して自分の力を発揮することも大切ですが、新しい場所で少し緊張したり勇気を出してチャレンジしたりすることで、自信が付いたり、自立心が育ったり、感受性が豊かになったりするのではないのでしょうか。旅行で得た経験を自信に、これからも日々の活動でみなさんが輝けるよう支援していきたいです。



今回紹介する自主製品は、ワークセンターこむたん総合事業部「バラエティ作業課」で製作している「缶バッジ」です。こむたんのキャラクターとしてこむたん君というマスコットキャラクターがいます。マスコットキャラクターのバッジを主としながら、府中市に許可をいただき「1年間」の約束で府中市マスコットキャラクター「ふちゅこま」の缶バッジのデザイン化も行いました。「ふちゅこま」は、府中市出身タレントの河西智美さんが監修しています。「ふちゅこま」の缶バッジデザインは3種類あり、府中をイメージした「ケヤキの木」、大國魂神社をイメージした「鳥居」、自由をイメージした「雲」となっております。缶バッジは郷土の森にある物産館や府中駅にある、はーもにいで販売しています。製作にあたり、利用者みんなでアイデアを出し合い、企画から道具を使つての製作、納品まで、一つひとつの作業を行っています。特に力を入れているのがパッケージングした時の背表紙です。みなさんぜひお手にとっていただけると嬉しいです。

写真は缶バッジ製作風景です



【編集後記】

新型コロナウイルス感染症が第5類に変更され、こむたんの中でも色々な課との交流を再開しコロナ前の日常が戻ってきました。また、地域での行事やイベントも開催されるようになり、製品販売で参加するようになりました。

この秋は府中市中心身障害者福祉センターまつりや多摩職業能力開発センターの技能祭が4年ぶりに開催され、こむたんからも利用者と職員で販売に参加することができました。参加した利用者は「楽しかった」「人が多かった」「いっぱい売れて良かった」と笑顔いっぱい話してくれました。私も行事に参加しましたが、久しぶりの販売活動は緊張や戸惑いもありましたが、地域の方との交流もできる販売活動は利用者にとっても貴重な体験になることを改めて実感しました。

イベント販売で売れた成果を励みに、作業活動がんばっていきたいと思っています。

(ワークセンターこむたん 高橋俊雄)

1995年 8月10日 第3種郵便認可(毎週1回 水曜日 発行)
2023年 11月20日 発行 SSKS 増刊通巻 第8820号